



2022年2月18日

報道関係者各位

慶應義塾

センチュリー赤尾コレクション × 斯道文庫
「書を極める：鑑定文化と古筆家の人々」開催（4/18～6/24）

江戸時代には、欠けた書物を分割し、書の美術品である古筆切（こひつぎれ）として、鑑賞、蒐集することが流行し、筆跡鑑定を職業とする古筆家（こひつけ）が成立しました。

2021年に(財)センチュリー文化財団より慶應義塾に寄贈いただいた「センチュリー赤尾コレクション」には、江戸初期から昭和期までの約300年の鑑定活動を通じて、古筆本家に集積した膨大な資料や記録などがまとまって存在しています。現在整理作業を進めていますが、その学術的価値の高さは計り知れません。本展では、その一部を初公開するとともに、慶應義塾の所蔵作品を加えて、古筆家の人々の活動と、鑑定文化を紹介します。

1. 基本情報

会 期：2022年4月18日(月)～6月24日(金) 土日祝休館
※特別開館日：5月14日(土)、6月18日(土)／臨時休館日：5月16日(月)、6月13日(月)
会 場：慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
開館時間：11:00～18:00
入 場：事前予約制（無料）
主 催：慶應義塾ミュージアム・コモンズ、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
協 力：慶應義塾大学三田メディアセンター
関連イベント：2022年5月14日（土）シンポジウム開催予定
詳 細：<https://bit.ly/3rAOBed>
※新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて会期等が変更になることがあります。最新情報は展覧会ウェブサイト（<https://bit.ly/3rAOBed>）をご確認ください。

2. 展覧会の概要

筆記用具として筆を使用していた国々では、書を鑑賞する文化が特に発達しており、日本も例外ではありません。江戸時代には古い筆跡である古筆（こひつ）を珍重することが盛んとなり、欠けた書物を分割し、書の美術品である古筆切（こひつぎれ）として、鑑賞したり蒐集したりすることが流行しました。筆者名で分類と整理が行われる決まりであったことにより、筆跡鑑定を職業とする家が成立しました。古筆を姓とした古筆家はその中心的な存在で、別家（分家）と区別して古筆本家と呼ばれます。

「センチュリー赤尾コレクション」には、江戸初期から昭和期までの約300年の鑑定活動を通じて古筆本家に集積した膨大な資料や記録などがまとまって存在しています。筆者を明らかにすることは、不可能との戦いでもあります。今回の展示では、古筆本家歴代の人々が仕事と格闘したありさまを、斯道文庫や慶應義塾図書館などの資料も交え、5つのセクションに分けて紹介します。

また、古筆切制作の実際に迫るようなワークショップ等も企画しています。

3. 主な出品作品

セクション1 「書を鑑賞する」

1. 「古筆短冊貼交屏風」、鎌倉時代～江戸前期（13-17世紀）
2. 伝小大君筆、「香紙切」（麗花集巻第八）、平安時代（11世紀）

セクション2 「筆跡鑑定という仕事」

3. 『写本名葉集』存8冊、江戸後期（19世紀）
4. 版本・写本『古筆名葉集』類8点、江戸時代～昭和期（19-20世紀）

セクション3 「古筆本家の人々」

5. 古筆了信賛・安田靱彦筆「古筆了佐像」、大正期（20世紀）
6. 古筆了意賛画「自画像」、江戸中期（18世紀）

セクション4 「筆跡鑑定書のさまざま」

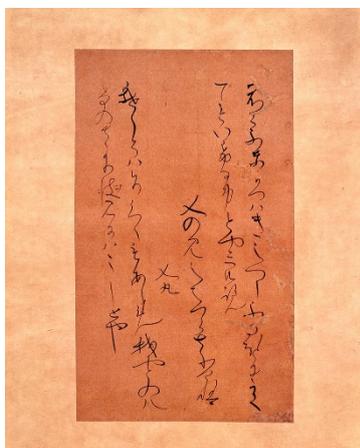
7. 『藻塩草手鑑目録』、江戸後期（19世紀）

セクション5 「古筆切の作り方」

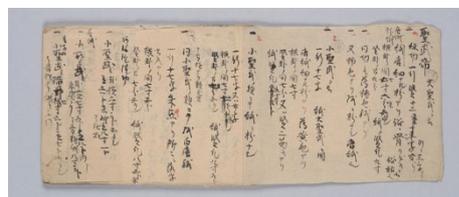
8. 「持明院切本後拾遺集残簡」及び「持明院切」、伝清水谷実秋筆、南北朝時代（14世紀）

※所蔵：1.は三田メディアセンター（慶應義塾図書館）、2.～8.は慶應義塾（センチュリー赤尾コレクション）

1. 「古筆短冊貼交屏風」



2. 伝小大君筆「香紙切」（麗花集巻第八）



3. 『写本名葉集』

5. 古筆了信賛・安田靱彦筆「古筆了佐像」



6. 古筆了意賛画「自画像」

7. 『藻塩草手鑑目録』



4. 会場案内

会 場：慶應義塾ミュージアム・コモンズ 3F 展示室
 住 所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学三田キャンパス東別館
 交通アクセス：田 町 駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分
 三 田 駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分
 赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分



ミュージアム・コモンズ
 (三田キャンパス東別館) 外観

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。
 ※本リリースは文部科学記者会、各社教育部、文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（豊田）
 TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640
 Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>